

# 日本史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
日本古代・中世史特論Ⅰ	日本古代史の研究と方法(1)	2	堀 裕	後期 金曜日 2講時
日本古代・中世史特論Ⅱ	中世日本周縁地域史の研究	2	柳原 敏昭	前期 火曜日 3講時
日本近世・近代史特論Ⅰ	近世社会の研究	2	籠橋 俊光	前期 金曜日 2講時
日本近世・近代史特論Ⅱ	近現代史における日本とアジア	2	安達 宏昭	後期 水曜日 2講時
日本史特論Ⅰ	日本近世の芸能と文化	2	小林 文雄	前期集中 その他 その他
史料学Ⅰ	中世古文書読解	2	柳原 敏昭	前期 火曜日 1講時
史料学Ⅱ	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	後期 水曜日 4講時
アーカイブズ学特論	歴史研究とアーカイブズ学	2	加藤 諭	後期 木曜日 2講時
記録遺産保全学特論	地域の歴史資料の保全と継承を考える	2	佐藤 大介	前期集中 その他 その他
日本古代・中世史研究演習Ⅰ	古代史料の研究(2)	2	永田 英明	前期 金曜日 3講時
日本古代・中世史研究演習Ⅱ	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	後期 火曜日 2講時
日本古代・中世史研究演習Ⅲ	日本中世史の研究(1)	2	柳原 敏昭	前期 月曜日 4講時
日本古代・中世史研究演習Ⅳ	日本中世史の研究(2)	2	柳原 敏昭	後期 月曜日 4講時
日本近世・近代史研究演習Ⅰ	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	前期 水曜日 5講時
日本近世・近代史研究演習Ⅱ	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	後期 水曜日 5講時
日本近世・近代史研究演習Ⅲ	近現代史研究法(1)	2	安達 宏昭	前期 火曜日 5講時
日本近世・近代史研究演習Ⅳ	近現代史研究法(2)	2	安達 宏昭	後期 火曜日 5講時
史料管理学Ⅰ	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	前期 金曜日 4講時.前期 金曜日 5講時
史料管理学Ⅱ	史料整理実習	2	籠橋 俊光	後期 金曜日 4講時.後期 金曜日 5講時

科目名：日本古代・中世史特論 I / Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)I

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LM25201, 科目ナンバリング：LJS-HIS601J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本古代史の研究と方法（1）

2. Course Title (授業題目)：Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：日本古代史に関する講義を行う。講義はおもに東アジアの宗教史と東北古代史をとりあげる。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、史料の扱い方、先行研究から何を読み取り、何を考えるべきかを学ぶこととなる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read reports of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：日本古代史に関する講義と論文講読を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading reports of ancient Japanese history. Students can deepen their understanding of the ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

1.  
ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明

2.  
古代史講義 1

3.  
論文を読む 1

4.  
論文を読む 2

5.  
古代史講義 2

6.  
古代史講義 3

7.  
古代史講義 4

8.  
論文を読む 3

9.  
古代史講義 5

10.  
古代史講義 6

11.  
古代史講義 7

12.  
論文を読む 4

13.  
古代史講義 8

14.  
古代史講義 9

15.

まとめ

**8. 成績評価方法：**

レポート（100%）

**9. 教科書および参考書：**

プリント随時配布

**10. 授業時間外学習：**配付された論文を読むこと。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

面談を希望する場合、事前に申し込みをすること。

科目名：日本古代・中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM12302, 科目ナンバリング：LJS-HIS602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世日本周縁地域史の研究

2. Course Title (授業題目)：Research on the History of the Peripheral Regions of Medieval Japan

3. 授業の目的と概要： 授業担当者が行っている、中世日本国の東西周縁部の比較研究の一端について講義する。前半は、主として東北地方と南九州における歴史認識や正統観念について講ずる。後半は、主として東北地方の歴史資料について論ずる。授業を通して、日本中世の国家構造について理解を深めるとともに、歴史研究の具体的方法について理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture will cover some aspects of the class instructor's comparative research on the eastern and western peripheries of medieval Japan. The first half of the lecture will focus mainly on historical perceptions and notions of legitimacy in the Tōhoku region and Southern Kyushu. The second half will focus mainly on historical materials of the Tōhoku region. Through the course, students will deepen their understanding of the structure of the Japanese medieval state and the specific methods of historical research.

5. 学習の到達目標：1. 中世日本の国家構造について理解する。

2. 歴史研究の具体的方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To understand the structure of the medieval Japanese state.

2. To acquire specific methods of historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 西の周縁地域 (1)

3. 西の周縁地域 (2)

4. 西の周縁地域 (3)

5. 東西周縁地域の比較 (1)

6. 東西周縁地域の比較 (2)

6. 東西周縁地域の比較 (3)

7. 東西周縁知己の比較 (4)

8. 史料論 (1)

9. 史料論 (2)

10. 史料論 (3)

11. 史料論 (4)

12. 史料論 (5)

13. 史料論 (6)

14. 史料論 (7)

15. まとめと試験

原則として対面

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他 (講義中における発表の内容と授業への参加度) [20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：授業中に紹介される研究書や論文を、各自で検討する。

Students will review on their own research books and papers introduced in class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本近世・近代史特論 I / Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM15201, 科目ナンバリング：LJS-HIS603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世社会の研究

2. Course Title (授業題目)：Research in Early Modern Society

3. 授業の目的と概要：日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students can deepen their understanding of early modern Japanese society. Students are required to read the designated essays for each class. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。

(2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本近世・近代史特論Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LM23202, 科目ナンバリング：LJS-HIS604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史における日本とアジア
2. Course Title (授業題目)：Japan and Asia in Modern History
3. 授業の目的と概要：近現代日本とアジアの関係は、世界の中での日本の位置や抱えていた課題を示すものであった。本講義では、その関係を通して見える日本国内の政治経済構造の特質や、国際政治上の位置について考察することを目指す。具体的には、「大東亜共栄圏」と言われた戦時期の経済ブロック構想の内実とその実態について、それ以前・以後の歴史もふまえて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The relationship between modern Japan and Asia shows Japan's position in the world and the issues it faced. This lecture aims to understand the characteristics of Japan's domestic political and economic structure and its position in international politics that can be seen through this relationship. Specifically, lectures will be given on the realities of the wartime economic bloc concept called the Greater East Asia Co-Prosperity Sphere, based on the historical background.
5. 学習の到達目標：(1) 近現代日本とアジアの関係について基礎的な事実を把握して理解できるようになる。  
(2) 近現代日本の政治経済構想について理解できるようになる。  
(3) 近現代における日本の国際社会での位置について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to grasp and understand the basic facts about modern Japan's relationship with Asia, Japan's political and economic structure, and its position in the international community.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 第1回 ガイダンス、概要、導入
  - 第2回 近代日本とアジア
  - 第3回 総力戦体制下の帝国日本の特徴とアジアとの関係
  - 第4回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(1)
  - 第5回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(2)
  - 第6回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(3)
  - 第7回 「大東亜共栄圏」構想の内実(1)
  - 第8回 「大東亜共栄圏」構想の内実(2)
  - 第9回 「大東亜共栄圏」政策の展開(1)
  - 第10回 「大東亜共栄圏」政策の展開(2)
  - 第11回 「大東亜共栄圏」政策の展開(3)
  - 第12回 「大東亜共栄圏」政策の展開(4)
  - 第13回 戦後の日本とアジア(1)
  - 第14回 戦後の日本とアジア(2)
  - 第15回 戦後の日本とアジア(3) とまとめ
8. 成績評価方法：

期末レポート60%、出席20%、ミニッツペーパー20%
9. 教科書および参考書：

教科書：安達宏昭『大東亜共栄圏—帝国日本のアジア支配構想—』中公新書、2022年。  
参考書：安達宏昭『戦前期日本と東南アジア』吉川弘文館、2022年。安達宏昭『「大東亜共栄圏」の経済構想』吉川弘文館、2013年。  
その他、必要に応じて参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：教科書、配付したプリントを、授業のために予習や復習を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50 要予約

科目名：日本史特論 I / History in Japan(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：単位数：2

担当教員：小林 文雄

コード：LM98811, 科目ナンバリング：LJS-HIS605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世の芸能と文化

2. Course Title (授業題目) : Research on early modern Japanese public entertainments and society

3. 授業の目的と概要：近世の日本では、歌舞伎や浄瑠璃など多様な芸能が発展し、庶民の暮らしや心性に影響を与えました。また、出版業が成立し、文字の文化が庶民の間に普及したのもこの時代です。この講義では、芸能と書籍（本）を通して、近世文化の特色と意義を考察したいと思います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this lecture is to understand the history of public entertainments and publishing industry in early modern Japan. I will introduce cultural features and significance in early modern Japanese society.

5. 学習の到達目標：日本近世の文化史的な意義を説明できるようになる。  
文化的事象と時代背景・社会状況との関連を読み取ることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Understand the history of early modern Japan through public entertainments and publishing industry.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1 ガイダンス
- 2 近世の芸能文化 (1)
- 7 近世の芸能文化 (2)
- 3 近世の芸能文化 (3)
- 4 歌舞伎から江戸の社会を考える (1)
- 5 歌舞伎から江戸の社会を考える (2)
- 6 歌舞伎から江戸の社会を考える (3)
- 7 城下町の芸能と社会 (1)
- 8 城下町の芸能と社会 (2)
- 9 芸能文化の交流と受容 (1)
- 10 芸能文化の交流と受容 (2)
- 11 芸能文化の交流と受容 (3)
- 12 書物と地域社会 (1)
- 13 書物と地域社会 (2)
- 14 書物と地域社会 (3)
- 15 まとめと試験

8. 成績評価方法：

講義中に提出するミニッツペーパー 30% 出席 20% 理解度確認のための試験 50%

9. 教科書および参考書：

プリントを配布します。参考書は授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：配付した資料に挙げられた作品（演劇・音楽）やその作者について、図書館やインターネットで調べたり、視聴したりしておいてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

授業のなかで、歌舞伎や長唄などの近世芸能を視聴する時間をとる予定です。

科目名：史科学 I / Archival Science I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM12102, 科目ナンバリング：LJS-HIS607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世古文書読解

2. Course Title (授業題目) : Study of Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的資料をいう（日記や編纂物、文学作品は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、鎌倉幕府、室町幕府、戦国大名が発給した文書の原文（写真）を読むことで、中世の文書の基礎的な読解力、語彙力を身につける。また、様式の展開ひいてはその歴史的背景について理解を深める

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Historical materials whose sender and recipient are clearly stated. This is the definition of ancient documents (komonzyo). However, diaries and compilations are excluded. Ancient documents are the most important historical materials for historical research. Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding photos of original documents of Medieval Japan, Issued by the Kamakura Shogunate, Muromachi Shogunate, Sengoku-daimyo. In this class, you will also learn about the form of the ancient document and their changes including historical backgrounds.

5. 学習の到達目標：日本中世文書の読解力を身につけ、様式についての基本的な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding warrior documents of Medieval Japan, and will acquire the basic knowledge of diplomatics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面のみ

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 1 0) 室町幕府文書 命令の下達・施行
- 1 1) 軍事関係文書
- 1 2) 戦国大名文書①
- 1 3) 戦国大名文書②
- 1 4) 譲状、起請文など
- 1 5) 授業のまとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容、講義への参加度） [20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

1 0. 授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：史科学Ⅱ／ Archival Science II

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM23402, 科目ナンバリング：LJS-HIS608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世古文書読解

2. Course Title (授業題目)：Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the basics of reading early modern Japanese documents. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2)近世古文書の読解能力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic skills to reading early modern documents.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定
11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
15. 講義のまとめ

8. 成績評価方法：

出席[20%]・確認テスト[80%]

9. 教科書および参考書：

随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：アーカイブズ学特論／ Archival Science (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LM24201, 科目ナンバリング：LJS-HIS629J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：歴史研究とアーカイブズ学
2. Course Title (授業題目)：Historical Science and Archival Science
3. 授業の目的と概要：本講義では、主としてアーキビストとして必要な知識を習得し、アーカイブズ学の概要を理解することを目的とする。アーカイブズの成り立ちや役割について国内外の事例から理解を深めるとともに、その保存・管理システムを構築するための学問分野であるアーカイブズ学の理論と体系について学び、様々なアーカイブズのあり方について考察する。またアーカイブズの実務に必要となる、評価選別、目録編成、利用審査、利用普及活動などに関する具体的な方法論について知見を深める。その上で、記録の収集、保存、整理公開、利活用の流れを総合的に理解し、
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is mainly to acquire the knowledge necessary for archivists and to understand the outline of archival studies. In addition to deepening the understanding of the origins and roles of archives through case studies from Japan and abroad, students will learn about the theories and systems of archival science, which is an academic field for constructing archival preservation and management systems, and will consider various types of archives. In addition, students will learn about theories and systems of archival science, which is an academic discipline for building archival preservation and management systems. In addition, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the process of collecting, preserving, organizing, disclosing, and utilizing records, and to deepen their knowledge.
5. 学習の到達目標：アーカイブズ学の理論と体系について学び、記録の収集、保存、整理公開、利活用のあり方について理解することを目的とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to learn about the theory and system of archival studies, and to understand how records should be collected, preserved, organized, released, and utilized.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明
  2. アーカイブズの理論と原則
  3. レコード・マネジメントとアーカイブズ
  4. アーキビストの倫理と役割
  5. 世界のアーカイブズと歴史
  6. 日本のアーカイブズ① (公文書館)
  7. 日本のアーカイブズ② (民間アーカイブズ)
  8. 日本のアーカイブズ③ (大学アーカイブズ)
  9. 公文書管理と法制度
  10. アーカイブズの技法 (評価選別)
  11. アーカイブズの技法 (目録編成)
  12. アーカイブズの技法 (利用審査)
  13. アーカイブズの現状と課題 (利用普及と人材育成)
  14. 東北大学史料館見学
  15. まとめ
8. 成績評価方法：

出席 (80%)・レポート (20%)
9. 教科書および参考書：

レジュメ随時配布
10. 授業時間外学習：配付されたレジュメを復習すること。レポートを作成すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：記録遺産保全学特論／ Memory Heritage Preservation Theory (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 大介

コード：LM98812, 科目ナンバリング：LJS-HIS630J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域の歴史資料の保全と継承を考える

2. Course Title (授業題目)：Considering the preservation and succession of local historical materials

3. 授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。特に、東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論や実際の体験を通じて、課題の所在を認識することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about issues to protect and pass on the vast amount of historical materials that still remain in the local community, as well as how to practice them, through lectures, discussions, and actual community activities. In particular, the purpose of this project is to identify the location of issues through discussion and actual experiences on how to protect the huge amount of old documents, tools and other historical materials left in local communities, which are currently a major issue, as well as the activities to rescue historical materials after the Great East Japan Earthquake.

5. 学習の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。

・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Based on the history surrounding the preservation of historical materials in the past, you will learn about the issues for inheriting the historical materials left in the local community.

・Through lectures, students gain the ability to think for themselves that "What is" the raison d'être of historians for society?.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1日 危機に瀕する地域の史料

1 ガイダンス

2 講義 「歴史資料」とは

3 講義 地域の歴史資料の置かれた現状

第2日 「1. 17」の経験、「3. 11」を経て一大災害時の史料レスキュー

4 講義 阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー

5 講義 東日本大震災での歴史資料レスキュー

6 質疑応答

第3日 福島県浜通り地方での史料レスキュー

4 講義 原発被災地での活動①

5 講義 原発被災地での活動②

6 質疑応答

第4日 歴史資料を通じた地域づくり

10 講義 史料を通じて地域と向き合う①

11 講義 史料を通じて地域と向き合う②

12 質疑応答

第5日 人・コミュニティへの支援としての歴史資料保全

13 講義 史料保全の可能性①

14 講義 史料保全の可能性②

15 質疑応答

\*講義のより詳細な内容については、履修登録完了時に、受講予定者に提示する予定である。

8. 成績評価方法：

・平常点（出席、討論への参加）（40パーセント）

・レポート（60パーセント） \*日本語のみとします。

9. 教科書および参考書：

・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011年）

・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012年）

・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014年）

ほか、講義中指示する。

**10. 授業時間外学習：**・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の31組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。

・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他：**

・講義は日本語で行います。 This lecture will be given in Japanese only.

・本講義は、「認定アーキビスト」の必修単位となっています。 This course is a required credit for "Certified Archivist", by National Archives of Japan.

科目名：日本古代・中世史研究演習 I / Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：永田 英明

コード：LM15303, 科目ナンバリング：LJS-HIS609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2. Course Title (授業題目)：research of ancient historical materials(2)

3. 授業の目的と概要：日本古代の法令集『類聚三代格』の読解を通じて、古代史料の読解能力を養います。授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Ruiju-Sandaikyaku. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class.

5. 学習の到達目標：日本古代史に関する研究能力を身につけるとともに、報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students acquire advanced research skills in ancient Japanese history, and It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）・授業での報告と討論への参加（50%）

9. 教科書および参考書：

国史大系本『類聚三代格』前編・後編（吉川弘文館）※必ずしも購入の必要はない。

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LM22202, 科目ナンバリング：LJS-HIS610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（1）

2. Course Title (授業題目) : research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：平安時代を学ぶための基本史料である『小右記』をテキストとしてとりあげる。『小右記』は、平安時代中期の男性貴族の日記である。記載された内容を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。このことにより、史料としての扱い方に習熟し、古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read Heian era's document written by a male nobleman. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the society of Heian era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2.

『小右記』を読む（1）

3.

『小右記』を読む（2）

4.

『小右記』を読む（3）

5.

『小右記』を読む（4）

6.

『小右記』を読む（5）

7.

『小右記』を読む（6）

8.

『小右記』を読む（7）

9.

『小右記』を読む（8）

10.

『小右記』を読む（9）

11.

『小右記』を読む（10）

12.

『小右記』を読む（11）

13.

『小右記』を読む（12）

14.

『小右記』を読む(13)

15.

まとめ

**8. 成績評価方法:**

レポート(50%)・授業での報告と討論への参加(50%)

**9. 教科書および参考書:**

テキスト 『大日本古記録 小右記』1~11(岩波書店)。購入の必要はない。

**10. 授業時間外学習:** 史料を事前に読むこと及び復習を行うこと。

**11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

**12. その他:**

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM11402, 科目ナンバリング：LJS-HIS611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世史の研究 (1)
2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History 1
3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.
5. 学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。  
(2)報告・討論の方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.  
(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1) ガイダンス
  - 2) 学生による報告と討論
  - 3) 学生による報告と討論
  - 4) 学生による報告と討論
  - 5) 学生による報告と討論
  - 6) 学生による報告と討論
  - 7) 学生による報告と討論
  - 8) 学生による報告と討論
  - 9) 学生による報告と討論
  - 10) 学生による報告と討論
  - 11) 学生による報告と討論
  - 12) 学生による報告と討論
  - 13) 学生による報告と討論
  - 14) 学生による報告と討論
  - 15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：  
レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]
9. 教科書および参考書：  
特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

#### 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

#### 12. その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval History " 1 and 2 consecutively.

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅳ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM21402, 科目ナンバリング：LJS-HIS612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世史の研究 (2)
2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History 2
3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.
5. 学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。  
(2)報告・討論の方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.  
(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1) ガイダンス
  - 2) 学生による報告と討論
  - 3) 学生による報告と討論
  - 4) 学生による報告と討論
  - 5) 学生による報告と討論
  - 6) 学生による報告と討論
  - 7) 学生による報告と討論
  - 8) 学生による報告と討論
  - 9) 学生による報告と討論
  - 10) 学生による報告と討論
  - 11) 学生による報告と討論
  - 12) 学生による報告と討論
  - 13) 学生による報告と討論
  - 14) 学生による報告と討論
  - 15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：  
レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]
9. 教科書および参考書：  
特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

#### 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

#### 12. その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval History " 1 and 2 consecutively.

科目名：日本近世・近代史研究演習 I / Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM13505, 科目ナンバリング：LJS-HIS613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（1）

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1) 日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論 (1)

3. 受講者による報告と討論 (2)

4. 受講者による報告と討論 (3)

5. 受講者による報告と討論 (4)

6. 受講者による報告と討論 (5)

7. 受講者による報告と討論 (6)

8. 受講者による報告と討論 (7)

9. 受講者による報告と討論 (8)

10. 受講者による報告と討論 (9)

11. 受講者による報告と討論 (10)

12. 受講者による報告と討論 (11)

13. 受講者による報告と討論 (12)

14. 受講者による報告と討論 (13)

15. 受講者による報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM23505, 科目ナンバリング：LJS-HIS614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（2）

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1) 日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告・討論(1)

3. 受講者による報告・討論(2)

4. 受講者による報告・討論(3)

5. 受講者による報告・討論(4)

6. 受講者による報告・討論(5)

7. 受講者による報告・討論(6)

8. 受講者による報告・討論(7)

9. 受講者による報告・討論(8)

10. 受講者による報告・討論(9)

11. 受講者による報告・討論(10)

12. 受講者による報告・討論(11)

13. 受講者による報告・討論(12)

14. 受講者による報告・討論(13)

15. 受講者による報告・討論(14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅲ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LM12503, 科目ナンバリング：LJS-HIS615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students will study basic research contents in modern history, set their own research themes, and present their interests, viewing angles, and empirical analysis. Then, through discussions, clarify issues regarding the presenter's research methods. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, students will be able to compile a thesis on historical studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

( ) 筆記試験 [ %]・(○) レポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他(発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅳ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LM22503, 科目ナンバリング：LJS-HIS616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the research presentation of the Advanced Seminar on Early Modern and Modern History in JapanⅢ (Method of Studies on Japanese Modern History (1)), students will further research and report the results.

Then, through discussions, students narrow down the issues and summarize them into papers.

Through this, participants deepen their understanding of the contents of Japanese modern historical studies. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, students will be able to compile a thesis on historical studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

( ) 筆記試験 [ %]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他(発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること

科目名：史料管理学Ⅰ / Archival Science I

曜日・講時：前期 金曜日 4講時、前期 金曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM15402, 科目ナンバリング：LJS-HIS631J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目) : Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：史料管理学Ⅱ／ Archival Science II

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時, 後期 金曜日 5 講時

Semester : 2 学期 単位数 : 2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM25408, 科目ナンバリング：LJS-HIS632J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理実習

2. Course Title (授業題目) : Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要：実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけでなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス
2. 史料整理実習 (1)
3. 史料整理実習 (2)
4. 史料整理実習 (3)
5. 史料整理実習 (4)
6. 史料整理実習 (5)
7. 史料整理実習 (6)
8. 史料整理実習 (7)
9. 史料整理実習 (8)
10. 史料整理実習 (9)
11. 史料整理実習 (10)
12. 史料整理実習 (11)
13. 史料整理実習 (12)
14. 史料整理実習 (13)
15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

8. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[70%]

9. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

10. 授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

必ず史料管理学 I 「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。また、受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割を強く期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)